

# 民主化闘争情報

No. 948  
2017年2月16日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

警視庁と神奈川県警は、1月10日、革マル派非公然アジトと見られる集合住宅などを捜索し、革マル派最高幹部、通称「植田琢磨」議長の本名（新田寛）や住民登録先を特定したことを明らかにした。革マル派は、結成時から議長を務めていた故黒田寛一議長が1996年に身を引き、新田議長が後任となったが、約20年にわたって「植田琢磨」というペンネームを使い、人前にはほとんど姿を見せておらず、大きな波紋を呼んでいる。

## 革マル派最高幹部の実名が特定される！

### ～議長自ら範を示せず！？～

#### 匿名徹底のはずではなかったのか？革マル派も気の緩みか？

朝日新聞は、2月14日朝刊で、「革マル派実名特定ってどういうこと？」と題し、「20年間ベールに包まれていた過激派「革マル派」の最高責任者。（中略）実名が明らかになるのはどんな意味を持つのか」と極めて興味深いコラムを掲載した。

以下、当コラムから抜粋する。

神奈川県内にあるUR住宅3階の一室に、警視庁と神奈川県警の捜査員が次々と入った。室内にいたのは女性1人だったが、この部屋で住民登録をしていたのが新田寛氏、70歳。1996年に革マル派の議長に就任した「植田琢磨」の実名という。（中略）捜査関係者によれば、革マル派のほとんどは匿名で活動。私生活でも結婚や運転免許の取得、実名での賃貸契約も避けるという。公の機関などに「痕跡」を残し、対立相手と見なす警察につけている隙を与えないためだ。

組織でこんな「ルール」を定めているのに、議長は実名で賃貸契約を結んでいたほか、携帯電話も契約し、運転免許証も取得していたという。革マル派は「笑止千万の妄言である」とのコメントを出したが、「議長自ら範を示せず、衝撃を受けたはずだ」（捜査幹部）。議長の交代を含め、今後の求心力の変化に注目しているという。

（中略）

革マル派はいま、5,500人ほど（警察庁）。（中略）実名を明かさない体質は以前と変わらず、革マル派を担当した経験がある捜査員は「目的地に向かう時はタクシーを3回乗り換えたり、いったん逆方向の電車に乗ったりする」とその密行ぶりを証言する。（後略）

#### ペンネームを持つJR革マルも多数存在！

かつて、JR総連元委員長「立花」、同じく「宇和」、JR東労組元委員長「仁志」をはじめ、「南雲」「大方」「黒潮」「飛田」「木暮」なるペンネームを持ったJR革マル幹部の存在が明らかになったが、JR発足30年を機にJR総連と革マル派との関わりを検証すべきだ。詳しくは、JR連合「検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！」シリーズを参照されたい（JR連合ホームページにリンク）。

#### 歴代政権が認めるJR革マル浸透問題の1日も早い解決を！